

文化プログラムに関する文化庁の取組

平成29年12月

文化庁

平成30年度 概算要求

趣旨

文化芸術基本法や政府の重要方針等を踏まえ、全国各地において、観光やまちづくり、国際交流、福祉、教育、産業等における施策との有機的な連携により文化プログラムを推進する必要がある。このため、文化庁予算のうち、以下の主要施策を中核に文化プログラムを推進し、社会的・経済的価値を育み、2020年以降へのレガシー創出につなげる。

主な重点課題

【文化芸術基本法第2条10(新設)】

文化芸術に関する施策の推進にあたっては、文化芸術により生み出される様々な価値を文化芸術の継承、発展及び創造に活用することが重要であることに鑑み、文化芸術の固有の意義と価値を尊重しつつ、観光、まちづくり、国際交流、福祉、教育、産業その他の各関係分野における施策との有機的な連携が図られるよう配慮されなければならない。

政府の重要方針における最近の主な記述(抜粋)

【経済財政運営と改革の基本方針2017】

文化による国家ブランド戦略の構築と文化産業の経済規模(文化GDP)の拡大

- ・観光先進国を目指すこととし、政府一丸、官民を挙げて、推進体制を強化し、その早期実現に向けて取り組む

【未来投資戦略2017】

- ・産学官連携による文化芸術資源の活用を通じた地域活性化・ブランド力向上やコンテンツを軸とした文化の社会的・経済的価値等の創出

- ・障害者の文化芸術活動の機会の拡大

【まち・ひと・しごと創生基本方針2017】

- ・地域の文化資源を活用した観光振興や地方創生の拡充に向けた対応の強化

主要施策

1. 国際文化芸術発信拠点形成事業 H30要求・要望額 2,611百万円(新規)

文化芸術と観光、まちづくり、食、国際交流、福祉、教育、産業等と有機的に連携した国際発信力のある拠点形成を支援

2. 戦略的芸術文化創造推進事業 H30要求・要望額 2,020百万円(拡充)

世界における日本の芸術文化への関心と評価を高め、また、鑑賞機会を充実するため、我が国の芸術文化各分野の総力を結集して、グローバルなネットワークを構築・強化しつつ、世界のトップと評価される新たな芸術文化の創造と発信を図るなど、戦略的な芸術文化施策を展開する。

3. 共生社会実現のための芸術文化振興事業

H30要求・要望額 504百万円(新規)

障害者、高齢者、外国人等すべての人が文化芸術活動に参加できる施策等を展開し、共生社会の実現を推進

4. 地域の美術館・歴史博物館を中核とした文化クラスター形成事業

H30要求・要望額 2,484百万円(新規)

観光振興、多言語化、ユニークベニューの促進など、美術館等を中核とした文化クラスター創出に向けた地域文化資源の面的・一体的整備を支援

1. 文化プログラム実施に向けた全国的な機運醸成
2. 先進的事業の実施によるレガシー創出に向けた取組の強化
3. 2020年をひとつのターゲットとした戦略的発信・拠点形成

文化プログラムの本格展開

- ・東京2020文化オリンピック及びbeyond2020プログラムの全国展開
- ・文化芸術立国実現のための基盤となる先進的な文化プログラムの実施
- ・地方公共団体等が実施する新たな文化振興モデルの構築に向けた取組を推進(文化×産業×観光等)

文化的・経済的・社会的レガシーの創出

- ・国際化や共生社会構築に資する文化プログラムの継続実施
- ・世界水準の公演や展示を発信
- ・地域文化資源を活用した文化観光プログラムの実施

文化芸術立国実現

2018年

明治150年、文化庁50周年

2019年

ラグビーワールドカップ

2020年

オリパラ
東京大会

2021年

ワールドマスターズゲームズ

2022年

文化芸術を社会の基盤と位置づけ、文化資源によって付加価値を生み、社会的・経済的な価値を創出することにより、文化芸術立国の実現を図る。地域の文化芸術の力を活用した国際発信力のある拠点の形成により、2020東京大会とその後を見据えた効果的な対外発信を行い、訪日外国人（インバウンド）の増加、活力ある豊かな地域社会の実現に資する。

現状

文化芸術資源を活用して地域の再生に取り組む自治体が増え、優良事例も増加しているが、一方で、

- 地域経済活性化の推進手段として、文化芸術と他の分野との有機的連携が図られつつ最大限活用されているとは言えず、波及効果も限定的
- 文化芸術のフェスティバルの開催は活発化し、メディアで特集されるなど認知度が高まりつつあるが、海外まで広く認知されているとは言えず来場者に占める訪日外国人の割合も低水準（5%未満がほとんど）
<参考>海外の有名観光ガイド(Lonely Planet Japan)の「Top things to do」に挙げられている50か所のうち文化芸術のフェスティバル関連は瀬戸内国際芸術祭のみ
- 地域の文化芸術を担う総合プロデューサー等専門人材が不足

未来投資戦略2017(平成29年6月9日閣議決定)

第2 Ⅲ 地域経済好循環システムの構築 3. (2)

iii)文化芸術資源を活用した経済活性化

産学官連携による文化芸術資源の活用を通じた地域活性化・ブランド力向上やコンテンツを軸とした文化の社会的・経済的価値等の創出に向け、文化庁の機能強化を図りつつ、文化芸術産業の経済規模(文化GDP)及び**文化芸術資源の活用による経済波及効果を拡大し、文化芸術・観光・産業が一体となり新たな価値を創出する「稼ぐ文化」**への展開を推進する。

経済財政運営と改革の基本方針2017(平成29年6月9日閣議決定)

第2章2. (5)①文化芸術立国

「文化経済戦略(仮称)」を策定し稼ぐ文化への展開を推進するとともに、政策の総合的推進など新たな政策ニーズ対応のための文化庁の機能強化等を図る。**2020年までを文化政策推進重点期間として位置付け、文化による国家ブランド戦略の構築と文化産業の経済規模(文化GDP)の拡大**に向け取組を推進する。

国際発信力

ブランド化

民間企業との連携

関連分野との有機的な連携

を重点的に支援・強化

事業内容

2020東京大会とその後を見据え、日本全国で開催されている芸術祭や地方の行事をコアとした文化芸術事業を充実・発展させ、民間企業を大胆に巻き込みつつ他分野との有機的な連携を図ることで継続的に世界にアピールできる**我が国を代表する国際文化芸術発信拠点を形成**する取組を支援。

具体的には、以下の取組を総合的に実施する事業者を支援

- 芸・産学官が連携して行う継続的な文化芸術事業の実施
- 影響力を持つ海外メディアの招聘をはじめとした国際発信力の強化
- 国内のみならず訪日外国人をも魅了するコンテンツとなるよう戦略的なブランディング
- 国際的な集客力のあるアーティストの招聘
- 継続的に支える官民一体となった組織の形成
- コアとなる総合プロデューサー人材の育成 など

観光、まちづくり、食、国際交流、福祉、教育、産業その他の関連分野と有機的に連携させて事業展開を行うことで、経済活性化等の波及効果の最大化を図り、訪日外国人(インバウンド)の増加、活力ある豊かな地域社会の実現を促す。



- 補助対象事業者 地方公共団体、民間企業を含む実行委員会等
- 補助金予定額 1拠点1.7億円
- 支援予定拠点数 15拠点
- 補助対象経費 国際発信に要する経費
文化芸術事業の質の向上に資する出演費・舞台費等
- 支援期間 最大5年間の継続支援

<参考>エディンバラ・フェスティバル

スコットランドの首都エディンバラで毎年開催される複数の芸術と文化のフェスティバルの総称。

世界中から舞踏、オペラ、音楽、演劇界の一流アーティストを招聘する「エディンバラ国際フェスティバル」など通年で10を超えるフェスティバルが開催される。

来訪者は450万人超、経済効果は約437億円(2015年スコットランド)。地域住民の89%が、フェスティバルによって「エディンバラがスコットランドで特別な地になった」と回答し、シビックプライドの醸成にも寄与。

趣旨

世界における日本の芸術文化への関心と評価を高め、また、鑑賞機会を充実するため、我が国の芸術文化各分野の総力を結集して、グローバルなネットワークを構築・強化しつつ、世界のトップと評価される新たな芸術文化の創造と発信を図るなど、戦略的な芸術文化施策を展開する。

現在(平成29年度)

2018(平成30)年度

2019(平成31)年度

2020(平成32)年度

2021(平成33)年度

2022(平成34)年度

【事業概要】

2020東京大会をひとつの契機に、我が国の芸術文化各分野の総力を結集して行う世界レベルの公演等の実施、グローバル・ネットワークの構築、効果的な国内外への戦略的広報の構築・実施、観光や産業等と有機的に連携した新たな文化活動モデルの構築等を推進し、**2020年以降にレガシーを創出する戦略的な芸術文化施策の展開を図る。**

※世界水準の公演を行うため長期的な視点で計画的に複数の課題解決に取り組む

(最大5年間の継続実施)

その他、国民の鑑賞機会の充実を図る取組についても引き続き実施する。

【2020年以降へのレガシー創出】(効果)

- 我が国の芸術文化の水準が世界的なものに高まり、文化による国家ブランド戦略の構築やインバウンドの増加
- グローバルなネットワークを構築・強化した実施体制の強化 → 優れた芸術活動の安定的な実施
- 『観客層の拡大→入場料収入の増→公演数や質の向上→観客層拡大』といったプラスのスパイラル効果
- 地方や離島・へき地における、優れた舞台芸術公演の鑑賞機会を充実し、居住地域等による鑑賞機会の格差を縮小



2020東京大会

【芸術文化振興上の課題例】(現在の我が国の芸術文化活動)

文化による国家ブランド戦略の構築と社会的・経済的価値等の創出(新規・拡充)

- 我が国の実演芸術の世界へのアピールが足りないと同時に海外からも高い評価を得られる公演も少ない。
- 国際的に評価の高い芸術家が国内において恒常的に活躍できる場・機会が少ない。
- 海外からも高い評価を得られる公演を実現するための体制・基盤強化が必要。
- 新たな観客層の開拓が遅れている。
- 文化芸術を活用した新たな価値を創出する取組事例が少ない。

国民の鑑賞機会の充実

- 地方や離島・へき地における、優れた実演芸術を鑑賞する機会が少ない。

【想定される取組の例】

- 芸術文化各分野の総力を結集し、世界のトップと評価される公演等の実施。
- 専門家を交えた戦略的広報に基づく対外発信・マーケティング戦略の実施。
- 国内主要劇場と連携体制を構築し、ロングランの公演等の実施。
- グローバルなネットワークを構築・強化し、世界のトップと評価される国際共同制作公演の実施。
- 神社仏閣、国立公園等の特別感のあるユニークベニューで先進的な文化イベントを実施。
- 地方や離島・へき地において、高い評価を受ける芸術団体による公演等の実施。

障害者の芸術の振興のための鑑賞活動・創作活動への支援、文化芸術の力を利用した高齢者、青少年等の社会参画の推進、外国人等への我が国の暮らしの文化の学習機会の提供等を通じ、共生社会の実現を推進する。

事業概要

障害者の芸術活動支援を行う団体等、共生社会実現のための取組を実施する団体を支援

(1) 障害者の文化芸術活動推進プロジェクト

障害者の芸術の振興のため鑑賞活動や創作活動への支援や、国内外における展覧会等の取組を実施。

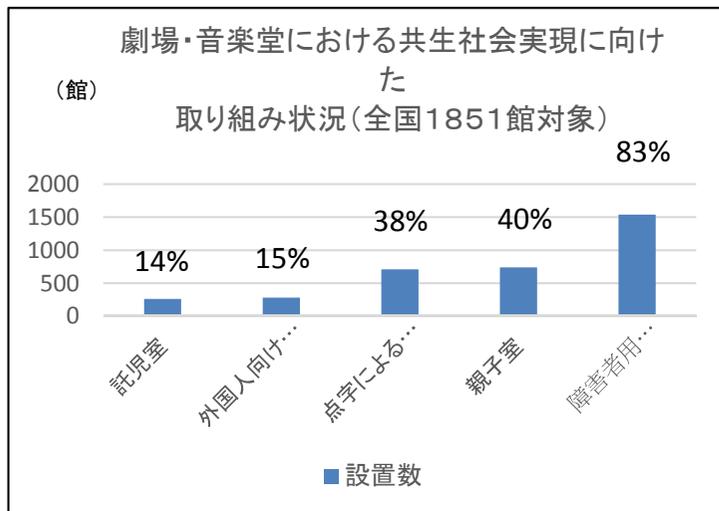
(2) 共生社会に向けた芸術活動プロジェクト

高齢者、青少年、子育て中の保護者等の抱える課題について、文化芸術の力を利用し、社会参画を進めるためのワークショップや調査研究等を実施。

(3) 暮らしの文化プロジェクト

外国人が地域社会に溶け込むために、我が国の食文化等の暮らしの文化について、学習機会や体験の場等を設ける。

共生社会実現に向けた取組状況



想定される取組事例

映画鑑賞活動支援

目の不自由な方のための、時や場所の切り替わり、指示語の説明、無音での出来事、感情を表す仕草、人物の表情など、監督の演出意図に沿って、音声ガイドを制作。



©NPOメディア・アクセス・サポートセンター

創作活動支援

博物館や美術館等が、障害者による優れた造形作品を発掘し、その存在を広くアピールするための巡回展を実施。



人種、国籍、性別、世代、障害の有無等を超えた共生社会の実現へ

● 未来投資戦略(成長戦略)2017(平成29年6月9日閣議決定)

第2 具体的施策 Ⅲ 地域経済好循環システムの構築

3. 観光・スポーツ・文化芸術 (2)新たに講ずべき具体的施策 iii)文化芸術資源を活用した経済活性化

① 文化芸術資源の活用の更なる促進に向けた体制・制度の整備

・文化芸術資源を活用した新たな需要やイノベーションの創出のため、学芸員の質的向上や高度プロデューサー人材等の育成をはじめ、多様な人材の戦略的な育成・確保を図る。

・文化財の適切な周期での修理・整備・美装化及び防災・防犯に取り組むとともに、ユニークベニューや多言語解説等の優良事例の普及や、VRや「クローン文化財」(高精度な文化財の複製)の技術等を活用した公開を促進するための検討を行う。

② 文化芸術資源を核とした地域活性化・ブランド力向上

・「上野文化の杜」等をモデルとして、文化クラスター(文化集積地区)創出に向けた地域文化資源の面的・一体的整備を関係省庁が連携して集中的に支援する。

事業目的

美術館・歴史博物館を核とした文化クラスター創出に向けた地域文化資源の面的・一体的整備、関係機関との連携、新たな事業創出、地域へのアウトリーチ活動、人材育成等、美術館・歴史博物館を活用・強化する取組を支援することによって、文化芸術立国の実現を目指す。

事業内容

1. 美術館・歴史博物館クラスター形成支援事業

地域の文化財の魅力発信、観光振興、多言語化による国際発信、ユニークベニューの促進など、美術館・歴史博物館を中核とした文化クラスター創出に向けた地域文化資源の面的・一体的整備の支援を行う。

2. 地域と共働した創造活動支援事業

美術館・歴史博物館が地域文化の核となって地域文化の発信、子供・若者・障がい者・高齢者が参加できるプログラム、学校教育との連携によるアウトリーチ活動等の支援を行う。

3. 美術館・歴史博物館重点分野推進支援事業

我が国の文化芸術の振興に係る諸課題のうち、緊急かつ重点的な分野等の取組を支援
(例)文化財防災に係る事業、日・米・欧・アジアにおける日本美術の専門家交流を通じた情報発信、人材育成等

■補助事業者

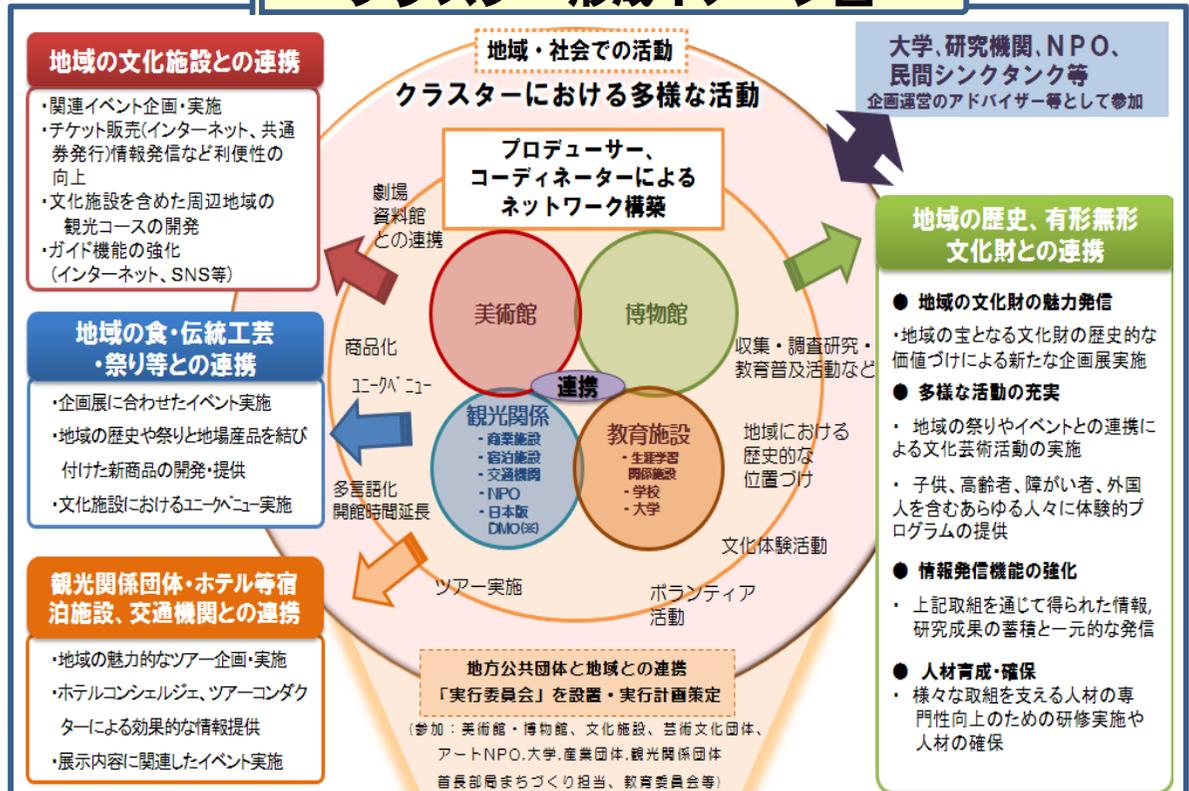
美術館・歴史博物館を中心とした実行委員会等

■補助金額

予算の範囲内において定額

■5年間で予定(3年目に中間評価)

クラスター形成イメージ図



※1. の日本版DMO(Destination Management/Marketing Organization)は、多様な関係者と協働しながら、様々な地域資源を組み合わせた観光地の一体的なブランドづくり、ウェブ・SNS等を活用した情報発信・プロモーション、効果的なマーケティング、観光地域づくりのための戦略策定等について、地域が主体となって着実に実施するための調整機能を備えた法人(商工業、交通事業者、宿泊施設、農林漁業、飲食店、地域住民、行政などとの連携。)

広報・普及に関する主な取組

Culture NIPPONシンポジウム

2020年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会は日本が誇る文化や伝統を世界に伝える絶好の機会。日本の強みである地域性豊かで多様性に富んだ文化を活かし、成熟社会にふさわしい次世代に誇れるレガシーを創り出す文化プログラムの周知と普及を図るため、地域の文化資源の発掘・発信や共生社会の実現をテーマとしたシンポジウムを開催。

①富山県～文化プログラム×北陸ブランド、多様な日本文化を世界へ～

平成29年10月29日(日) 富山国際会議場(富山市)

共催:富山県ほか **来場者数:400名程度**

《登壇者》

秋元雄史(東京藝術大学大学美術館館長、**オリパラ組織委員会文化・教育委員**)

大樋長左衛門(美術家)、増田セバスチャン(アーティスト)

林口砂里(アートプロデューサー)、中川翔子(歌手・タレント・女優)

《パフォーマンス》

可西舞踊研究所(高岡市)

②大分県～共に創る文化プログラム

2020年以降へのレガシーを目指して～

平成30年1月19日(金) 大分県立美術館(大分市)

共催:大分県ほか

《登壇者》

宮田亮平(文化庁長官)、

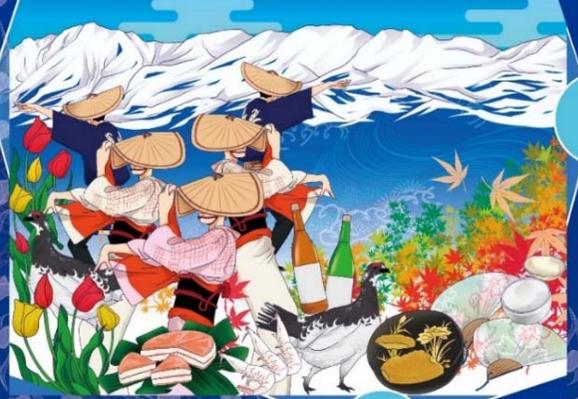
山出淳也(BEPPU PROJECT代表理事)

日比野克彦(美術家)

吉本光宏(**オリパラ組織委員会文化・教育委員**、ニッセイ基礎研)

清川進也(音楽家、プロデューサー)

文化プログラム×北陸ブランド、多様な日本文化を世界へ。



Culture NIPPON

カルチャーニッポン シンポジウム in 富山

2017.10.29
13:30-16:30(開場13:00)
富山国際会議場大手町フォーラム
富山県富山市大手町1-2
無料 300名
http://culture-nippon.go.jp/ja/
文化庁

パネリスト	登壇者
秋元雄史 大樋長左衛門 増田セバスチャン 林口砂里 中川翔子	宮田亮平 山出淳也 日比野克彦 吉本光宏 清川進也

③神奈川県～文化プログラムの優良事例の発信(タイトル未定)～

平成30年2月28日(水)横浜美術館(横浜市) 共催:横浜市ほか

《主な登壇者》 宮田亮平(文化庁長官)、岡本信明(横浜美術大学学長)、菅原みこ(beyond2020ロゴマークデザイン、横浜美術大学4年生)、青柳正規(**オリパラ組織委員会文化・教育委員長**)ほか文化プログラム(beyond2020プログラム等)の実施団体の代表



Culture NIPPON

カルチャーニッポン シンポジウム in 大分

2018.1.19
13:30-16:00(開場13:00)
大分県立美術館アトリウム
大分県大分市本町1-1
無料 150名
http://culture-nippon.go.jp/ja/
文化庁

パネリスト	モデレーター
宮田亮平 吉本光宏 日比野克彦 清川進也	山出淳也



文化情報プラットフォーム

2020年東京大会を契機に、全国各地で実施される文化プログラムや文化施設等の情報を広く収集し、インターネット上で一元的に管理・集約して、だれでも利用できる情報として発信するための取組。この情報をもとに文化庁は、文化プログラムポータルサイト「Culture NIPPON」を構築・運営。

将来的には民間事業者等も活用できるようオープンデータとして提供し、様々なサービスの創出を目指し、2020年以降のレガシーとする。

運用イメージ

平成29年 5月26日～ 運用開始(beyond2020の認証受付)
平成29年11月27日～ 一般の文化イベント情報も入力可能に

- ・文化芸術活動の見える化・発信を促進する観点から、文化庁が「文化情報プラットフォーム」を構築。省庁、自治体、文化施設、イベント主催者など多くの協力を得ながら、オープン方式(管理者権限を多様な主体に付与)での運営を目指す
- ・登録された情報は将来的にオープンデータとして提供し、民間事業者による多様なサービスの創出を促進
- ・機械翻訳エンジンを活用し、英語、中国語、韓国語、フランス語など多言語での情報発信

・オリパラ組織委員会や内閣官房オリパラ事務局、地方自治体等の協力により、東京2020文化オリンピック及びbeyond2020プログラムの認証情報を網羅的に収集



自治体・文化施設等に情報を登録・発信するための権限を委譲



登録・編集のための簡易な編集サイトを提供

文化施設等職員・ボランティアによる登録



現行Webサイトから自動で情報収集

既存の文化施設Webサイト



既存の文化情報データベース

既存データベースと連携して自動で情報収集

文化情報プラットフォーム



「beyond2020プログラム」の電子申請システムと連動

オープンデータ

オープンデータとして公開することで第三者が多様なサービスを創出することが見込まれる



文化庁ポータルサイトC Culture Nippon

観光系情報サービス

公共交通系情報サービス

地域情報発信メディア

[言語を選択](#)

Culture NIPPON

試行版



Culture NIPPON
カルチャーニッポン
シンポジウム in 富山

2017年10月29日(日) 富山県民会館大手町フォーラム

主催 文化庁 [詳細・申込はこちら](#)



beyond2020プログラム

> 申請はこちら

文化
オリンピック





文化庁

Agency for Cultural Affairs, Government of Japan

ニッポンたからものプロジェクト

NIPPON TAKARAMONO PROJECT

日本遺産 × Live Art



Culture NIPPON
カルチャーニッポン
シンポジウム in 富山

> 詳細・申込はこちら

PICK UP!

中国・四国ブロック
民俗芸能大会

2017年10月1日
倉敷市芸文館

PICK UP!

新・秋田の行事
in大仙2017

2017年10月14~15日
大館駅前・花巻市立総合運動場、大館市歴史館

エリア

From To キーワード

- beyond2020
- 公認文化オリンピック
- 応援文化オリンピック
- 展覧会
- 公演
- 上映会
- 講座
- 講演
- ワークシ:

発掘された映画たち2018

東京国立近代美術館フィルムセンター大ホール

【開催日時】
2018年1月30日~3月4日

【内容】
「発掘された映画たち」は、フィルムセンターが新たに発掘・復元した映画を紹介するシリーズ企画であり、今回は2015年から2017年の間に発掘・復元した日本の劇映画や文化・記録映画、ニュース映画などから多種多様な作品群を上映する。会期中に、文化財・歴史資料としての視覚遺産の大切さとそれらを保存することの重要性や意義についての認識も深めていただけるよう、上映とあわせて当館研究員等のトークイベントを開催する。

【料金】
有料…



文化の森 秋のファミリーコンサート

徳島県立二十一世紀館 イベントホール

【開催日時】
2017年10月7日

【出演者】…



北川舞台公演

徳島県 北川舞台 (八幡神社境内)

【開催日時】
2017年10月1日

【内容】…

ニッポンたからものプロジェクト～日本遺産×Live～

「日本遺産」に認定されている地域の伝統建築等を舞台に時代を担う若手実演家等による伝統芸能公演を実施。地方自治体や地域芸能団体等の参画も仰ぎ、地域固有の文化資源やストーリーを活かした構成にするとともに、外国人タレントらを「旅人(進行役)」に指名し、新たな切り口で伝統芸能を紹介。

あわせて、マスコミや旅行代理店等の協力も仰ぎながら、中高生対象の取材会や観光プログラムをあわせて実施することにより、全国各地で日本遺産を活用したアクティブラーニング・観光振興・地方創生の機運を高める。

主催：文化庁、公益社団法人日本芸能実演家団体協議会

共催：地方自治体

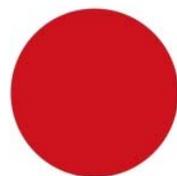
協力：近畿日本ツーリスト株式会社、共同通信ほか

■実施内容(平成29年度)

・全国5府県で、トップレベルの若手実演家と地域の芸能団体等による公演を実施する。

・あわせて、共同通信や地元新聞社とも連携し、中学生や高校生を記者とした取材会を開催し、高校生等による記事をホームページ等から情報発信する。

・また、文化観光プログラムとしても実施するため、旅行会社と連携し、観光ツアーの造成に向けた取組も行う。



JAPAN HERITAGE

日本遺産

《各公演のストーリー》

宇治公演(7月):日本茶800年の歴史散歩

小浜公演(10月):海と都をつなぐ若狭の往来文化遺産群～御食国若狭と鯖街道～

高岡公演(10月):加賀前田家ゆかりの町人文化が花咲くまち高岡一人、技、心一

尾道公演(11月):尾道水道が紡いだ中世からの箱庭的都市

津和野公演(11月):津和野今昔～百景図を歩く



瑞龍寺での公演の様子(2017年10月) 撮影:堀切功



瑞龍寺での取材会の様子(2017年10月)